

県下 J A の平成 27 年度決算の概要

平成 28 年 5 月 18 日
静岡県農業協同組合中央会

1. 損益の状況

～ 経常利益 117.3 億円、全 J A が黒字 ～

(単位:百万円)

	27年度	前年比		
		前年比	比率	
事業総利益	79,663	▲ 224	99.7%	(一般企業の売上総利益に該当)
うち信用	41,983	▲ 845	98.0%	(貯金の受入、資金の融資)
共済	23,602	763	103.3%	(共済商品の取扱)
購買	8,425	31	100.4%	(農業生産資材、生活資材の販売)
販売	3,748	7	100.2%	(農畜産物の市場出荷・直売)
加工	1,005	▲ 43	95.9%	(茶など農産加工品の販売)
事業管理費	71,117	▲ 819	98.9%	(職員の人件費、減価償却費等)
事業利益	8,547	594	107.5%	
経常利益	11,737	607	105.5%	
税引前当期利益	10,822	422	104.1%	
当期剰余金	7,765	262	103.5%	

(1) 事業総利益は 796.6 億円、前年比 99.7%と 2.2 億円の減益

一般企業の売上総利益に当たる事業総利益が 796.6 億円(前年比 99.7%、2.2 億円減)と 2 期連続の減益となった。

① 信用事業

預金残高の増加等により預金利息が 6.6 億円増加した一方で、金利の低下等により貸出金利息が 13.1 億円減少、貯金残高の増加により貯金費用が 3.8 億円増加したため、信用事業総利益は 419.8 億円(前年比 98.0%、8.4 億円減)となった。

② 共済事業

長期共済保有高および共済新契約高の減少により共済付加収入が0.7億円減少したが、奨励金が7.0億円増加したことにより共済事業総利益は236.0億円（前年比103.3%、7.6億円増）となった。

③ 購買事業

暖冬および単価の低下による石油類およびLPガスの供給高が減少したが、経費の節減により購買事業総利益は84.2億円（前年比100.4%、前年並み）となった。

④ 販売事業

野菜、みかん、肉用牛等が好調で販売品販売・取扱高は増加したが、販売雑収入が減少したため、販売事業総利益は37.4億円（前年比100.2%、前年並み）となった。

(2) 事業利益は85.4億円、前年比107.5%と5.9億円の増益

事業管理費は711.1億円、前年比98.9%と8.1億円の節減となり、事業利益は85.4億円（前年比107.5%、5.9億円増）と増益となった。

(3) 経常利益は117.3億円、前年比105.5%と6.0億円の増益

(4) 税引前当期利益は108.2億円、前年比104.1%と4.2億円の増益

(5) 当期剰余金は77.6億円、前年比103.5%と2.6億円の増益

2. 主要事業量

～貯金量が5兆円を突破～

(単位:百万円)

	27年度実績	前年比		全国順位
		増減	比率	
貯金	5,063,344	84,127	101.7%	4
預金	3,572,305	120,123	103.5%	-
貸出金	1,321,808	▲ 9,451	99.3%	3
有価証券	325,926	▲ 0	100.0%	-
長期共済保有高	15,624,480	▲ 399,699	97.5%	2
長期共済新契約高	1,119,611	▲ 82,093	93.2%	2
購買品供給高	55,292	▲ 2,867	95.1%	-
販売品販売・取扱高	89,896	1,226	101.4%	-
(うちファーマーズマーケット等)	11,760	284	102.5%	-
製品販売高	7,006	▲ 253	96.5%	-

(1) 信用事業

貯金は5兆633億円で前年比101.7%、841億円の増加、一方貸出金は1兆3,218億円で前年比99.3%、94.5億円の減少となった。

なお、全国順位では貯金は愛知県、神奈川県、兵庫県に次ぐ4位、貸出金は神奈川県、愛知県に次ぐ3位の実績となった。

(2) 共済事業

長期共済保有高は15兆6,244億円で前年比97.5%、3,996億円減少した。

また、長期共済新契約高は、1兆1,196億円で前年比93.2%、820億円減少した。

なお、全国順位では保有高、新契約高とも愛知県に次ぐ2位の実績となった。

(3) 購買事業

購買品供給高は552.9億円で前年比95.1%、28.6億円の減少となった。

これは、暖冬および単価の低下により石油類が16.9億円、LPガス4.8億円、前年度期中にAコープ店舗を閉鎖したため食料品が3.6億円減少したことによる。

(4) 販売事業

販売品販売・取扱高は898.9億円で前年比101.4%、12.2億円の増加となった。

これは、お茶が15.0億円、花卉・花木が2.3億円減少した一方で、野菜が14.9億円、みかんが4.6億円、肉用牛が9.0億円と増加したことによる。

3. 財務の健全性

(1) 不良債権への対応 ～不良債権比率は0.13%改善～

不良債権額は19.2億円減少し、186.6億円となった。不良債権比率（リスク管理債権比率）は、1.41%となり前年比0.13ポイント改善した。

なお、不良債権に対しては、担保や貸倒引当金により十分な保全が図られている。

不良債権の状況

(単位:百万円、%、ポイント)

	貸出金残高	不良債権額	不良債権の内訳				不良債権比率
			破綻先	延滞	3ヶ月以上延滞	貸出条件緩和	
県下合計	1,321,808	18,669	588	17,061	216	803	1.41
対前年増減	▲ 9,451	▲ 1,925	5	▲ 1,716	216	▲ 430	▲ 0.13
対前年比(%)	99.3	90.7					

(2) 自己資本比率 ～県下平均は18.21%～

県下JAの自己資本比率の平均は18.21%となり前年比0.31ポイント低下した。しかし、最も低いJAでも14.86%と高い水準を確保しており、国内基準の4%を大きく上回っている。

<2月決算JA>

伊豆の国 御殿場 大井川 ハイナン 掛川市 遠州夢咲

<3月決算JA>

伊豆太陽 三島函南 あいら伊豆 なんすん 富士市 富士宮
しみず 静岡市 遠州中央 とぴあ浜松 みっかび